

# 教科別 探究レポート根拠表

といのタネ

氏名: _____ クラス: _____ 記入日: _____

この用紙は、探究レポートの本文を書く前に、主張を支える根拠を整理するためのものです。日本史・歴史、理科・理数探究、地理のどれでも使えます。上から順に埋めると、最後に方法の節の下書きができます。

## ステップ1 教科と問いを書く

ここでは、レポートの教科と、今の時点の問いを1文で書きます。問いは後で直してかまいません。

- 教科: _____
- 問い: _____
- この問いで明らかにしたいこと: _____

## ステップ2 手元の根拠を種類ごとに書き出す

ここでは、今持っている資料・データ・記録を1行に1つずつ書きます。種類の欄は次の言葉から選びます。日本史・歴史は一次史料か二次文献、理科は測定データか先行研究、地理は統計・地図・現地記録です。

| 番号 | 種類 | 資料名・データ名 | 出典・所蔵先・調査年 | この根拠で言えること |
|---|---|---|---|---|
| 例 | 一次史料 | 明治期の町の地誌 | 国立国会図書館デジタルコレクション | 鉄道が通る前の宿場の様子 |
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |

## ステップ3 足りない根拠を決める

ここでは、問いに答えるために足りない根拠を書き、探す場所と日を決めます。

| 足りない根拠 | 探す場所 | 探す日 |
|---|---|---|
| 例: 鉄道が通った後の人口 | e-Statの国勢調査、市町村史 | 水曜の放課後 |
| | | |
| | | |
| | | |

足りないかどうかは、教科ごとに次の目安で判断します。

- 日本史・歴史: 一次史料が1つ以上あるかを見ます。二次文献しかなければ、その文献が引用している史料を探します。
- 理科・理数探究: 同じ条件で複数回測ったかを見ます。回数が少なければ、追加で測る日を決めます。
- 地理: 統計・地図・現地記録のうち2種類以上が揃っているかを見ます。

## ステップ4 AIで点検し、確かめた結果を書く

ここでは、AIの返答に出てきた資料名・年号・数値を、原典で確かめた結果を書きます。結果の欄は「一致」「不一致」「未確認」のどれかで書きます。未確認のものは本文に使いません。

| AIが挙げたもの | 原典で確かめた方法 | 結果 | 本文に使うか |
|---|---|---|---|
| 例: ある年の町の人口 | e-Statの表と照らし合わせた | 一致 | 使う |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

AIに「言えないこと」として挙げられた点を、自分の言葉で1〜2文にします。

_____

_____

## ステップ5 方法の節の下書きを3文で書く

ここでは、ステップ2から4の内容をもとに、本文の方法の節を3文で書きます。

- 1文目 何の資料・データを使ったか: _____
- 2文目 どの範囲・条件で集めたか: _____
- 3文目 どのように確かめたか: _____

記入例として、地理のレポートなら次のような3文になります。1文目は「e-Statの国勢調査と地理院地図、現地で書いたメモを使った」です。2文目は「調査年の違う2回分の人口と、駅から半径500mの範囲を対象にした」です。3文目は「統計の傾向と現地で見た店の配置が同じ向きかを照らし合わせた」です。

## 提出前の確認

- [ ] 本文に出てくる資料名に、出典が付いている
- [ ] 結果と考察を別の段落に分けた
- [ ] AIの文をそのまま貼り付けた箇所がない
- [ ] 未確認の資料名・年号・数値を本文に使っていない
- [ ] レポートでのAIの使い方について、担当の先生の指定を確かめた